



今治にハマった皆さんに、今治の魅力や活動についてインタビュー i'm into Imabari!



File:17



Person

JA おちいまばり
代表理事 理事長

渡部 浩忠さん

JAおちいまばりが運営する直売所『さいさいきて屋』は、2024年1月に来店者1500万人を突破しました。広大で開放的な店内には、管内の契約農家が丹精込めて栽培した新鮮で安全・安心な野菜や果物などがずらりと並びます。美味しく付加価値の高い今治産の農産物を提供するための幅広い活動をおこなう、JAおちいまばり渡部浩忠理事長にお話を伺いました。

農業を通じて人々を幸せにしたい

農家の声を聴くことを大切に

JAおちいまばりの経営理念は「あったか〜い、心のおつきあい。」この理念を組織の中で着実に実践していくため、渡部理事長は就任直後からさまざまな取り組みを行っています。ひとつは、これからの地域を担う農家生産者のところに理事長が出向き、対話をする。現場での疑問や不安、要望などにじっくりと耳を傾ける活動を約1年間実施してきました。現在は、これまでリーダーとして地域農業を牽引してこられた先輩農家のもとを訪ね、課題点や次世代の担い手への想い、JAに対する要望などを聴いているそうです。これらの様子は、JAおちいまばり広報誌の人気コーナーになっています。



もうひとつの重要な取り組みが、理事長自らネーミングした『^{ばくしん}麦心』というJA職員による農業お手伝い訪問です。職員の中には農家出身の方もおられますが、最近では非農家の方も増えているそう。また、農家出身でも、自身には農業経験がないという方も多いとか。そこで、職員が

組合員農家を訪れ、実際に農作業をお手伝いする中で、農業を学び、その苦勞ややりがいを知り、コミュニケーションを深めようと企画しました。「実際に農作業をすることも大事ですが、それ以上に大切なのは、組合員農家の方とたくさん会話をしてもらうこと。その後、気軽に声をかけてもらえるようになるじゃないですか。その関係性を作りたかったのが大きな狙いですね。」(渡部理事長) お手伝いすることで喜んでもらえるのはもちろんのこと、組合員農家の生の声を聴くことに意義があるのだと渡部理事長は言います。普段気づかないことに気づき、それを今後の事業に反映することもできます。『^{ばくしん}麦心』は、職員教育としても大きな成果を挙げているようです。



地域と未来を守る

JAおちいまばりグループは、令和4年にSDGs宣言をおこないました。全国的にも高齢化による農業の衰退は課題ですが、JAおちいまばりでは、^{しんこうたい}『心耕隊』や^{さくぞう}『ファーム咲創』を中心に労働力支援の充実を図ってお

り、柑橘や米麦、野菜栽培などに関わる作業を請け負っています。これらは、規模拡大に取り組む農家や、高齢により力仕事が多くなった農家を支援しています。

また、次世代の地域農業を担う新規就農者の育成に向けた研修制度も設けています。新規就農サポート事業では、これまで14名が修了し農業を開始。心耕隊から就農する方も3名いらっしゃるそうです。「これからも就農者を増やす活動は続けていかななくてはならないと思っています。現在、地域の個人経営農家をグループ化してお互いが協力し合える仕組みを整えようとしています。」(渡部理事長) 個々の力を結集して、産地全体を盛り上げようとしているのですね。



大人気の直売所「さいさいきて屋」。今治産の新鮮な野菜果物が並ぶ。

人が主役

渡部理事長は今治の魅力「豊かな自然と美しい景観」と答えてくれました。豊かな自然を守っていくことのひとつが農業であり、この地に農の営みがあることを大切にしたいと言います。それを理解したうえで、JAが組合員農家と地域の役に立つことが大事だと話してくれました。「行きつくところは『農家』であり『農業を営む人』。根本的には、農業を

する人を育てていかなければ話にならない。これはどんな仕事も同じですが、最終的には『人』が主人公であり、主役なのです。」と語る渡部理事長。だからこそ、組合員や地域の利用者、JA職員も含め、JAおちいまばりに関わる全ての人が幸せを感じる組織にしたい、という熱い想いを持っています。

「人が幸せだと感じるのはどんなことだろう？ということをもいつも発想の原点に置いています。農業をする人が幸せだなんて感じるのはどんな時だろう？我々がどんなことを提案し、農家とどういった関係性を築いていけば幸せを感じてもらえるのだろう？と常に考えます。また、作り手だけではなく、農作物を食べることで地域の農業を応援してくれる人も増やしていきたい。たくさんの人が今治・上島産の農作物を食べる幸せを感じてくれたら嬉しいですね。」(渡部理事長)



「今治地域の豊かな自然、美しい景観を次世代にバトンタッチするのが我々の役目」という渡部理事長の座右の銘は、『志高頭低』。志を高くもち常に謙虚であることをモットーに、農業を通じて人々を幸せにしたい、地域社会を豊かにしたい、その熱い心で今日も現場の声に耳を傾けています。

あなたの i'm into をおしえてください



踏まれて強くなる麦のように、農作業の経験や農家との交流を通して、強く逞しく成長してほしいという思いを込めて名付けたという、農業お手伝い訪問「^{ばくしん}麦心」。実際に職員からも「農家の皆さんの大変さややりがいを感じられてよかった！」という声が寄せられているそうです。これからも継続予定の「^{ばくしん}麦心」。渡部理事長は「^{ばくしん}麦心」に夢中です！

JAおちいまばりホームページ

